

悪役名の音象徴

悪役の名前を喚起する子音の調査

神谷 祥之介

1. はじめに

音象徴とは「ある特定の音によって喚起される特定のイメージ(意味)」であり、言語学や心理学等の幅広い分野で研究されているテーマである。本研究は中でも、音と「悪役らしさ」というイメージの結びつきおよび、幼児の言語獲得と音象徴の関連性を、英語母語話者に対して行った知覚実験の結果を通して議論する。音と「悪役らしさ」というイメージの関連性について、ディズニー作品中に登場するキャラクターの名称を分析した Hosokawa et al. (2018) によって (1) に挙げたような二つの傾向が示されている。

- (1) a. 有声阻害音は悪役の名称に頻繁に使用される。
- b. 両唇音は悪役ではないキャラクターの名称に頻繁に使用される。

Hosokawa らの研究では、これらの傾向が生まれる原因として次のような可能性が挙げられている。まず (1a) に関して、有声阻害音は「汚い」などのネガティブなイメージも喚起するとされており (Kawahara et al. 2008, 川原・篠原 2009)、そのようなイメージが影響して「悪役らしい」というイメージが誘発されているという可能性が指摘された。また、熊谷・川原 (2020) によると、両唇音は言語獲得の最も早い段階に現れる子音の一つであり、「赤ちゃん」にちなむイメージを喚起する。これに基づき、Hosokawa et al. (2018) では、(1b) の傾向はその「赤ちゃん」というイメージが「純粋さ」という印象に結びついた事による可能性が高いとしている。

2. 先行研究の問題点と本研究の目的

このように、「悪役らしさ」というイメージには、有声阻害音と両唇音が密接に関わっているように見える。しかし、Hosokawa らの報告には検証すべき点が存在する。まず、(1) に示される有声阻害音と両唇音の音象徴的傾向は、無意味語を用いた知覚実験によっては検証されていない。したがって、それらが人間にとって一般的な感覚により得られる生産的な傾向なのか、それとも単に製作側の意図によって作られたパターンなのかが明らかでない。また、彼らの分析で行われた比較の条件が一定であったかどうかは定かではない。例えば、両唇音に関する比較において、調音法や声帯振動に関する条件が揃っていたのかが明確にされていないため、それらの条件を一定にした場合に Hosokawa らと同様の結果が得られるのかがどうかは検討の余地がある。最後に、子音の獲得時期と子音が喚起する「悪役らしさ」というイメージの関連性の検証が不十分である。Hosokawa et al. (2018) は両唇音は獲得が早い子音であるために「悪役らしさ」を喚起しにくいと説明したが、獲得が遅い子音ほどそれらが持つ「悪役らしさ」は強くなるのかがどうかは検討されていない。これらの問題点を解決するため、本研究では以下のような知覚実験を行った。

3. 知覚実験

14名のイギリス出身の英語母語話者を対象として無意味語を用いた知覚実験を行った。本実験では、子音 19種類と母音の型 3種類 (CaCiCo, CeCoCa, CiCeCo; C は同一の子音) の組み合わせによるアルファベット表記の 3音節の無意味語を計 57個作成した (Papipo, Tetota, Mimemo など)。被験者には作成した無意味語を「人間が演じる悪役」のニックネームの候補として提示し、ヒーローと悪役の対立を描くテレビシリーズの監督になったという仮定の下で、それらがどれくらい悪役らしいか7段階で点数付けをしてもらった (1=最も悪役らしくない、7=最も悪役らしい)。

実験で得られた被験者の回答を集計し、無意味語を構成する子音ごとに算出した平均点を表1に示す。子音の種類ごとの平均点の比較方法としては、分散分析および多重比較を採用した。また、各子音の獲得時期と平均点の関連性を調べるために、Spearman の順位相関係数を用いた。なお、英語母語話者の幼児の子音の獲得時期のデータとしては Zhu and Dodd (2006) に掲載されている5つの先行研究のデータを使用した。すべての分析の結果から得られた3つの傾向を (2) に示す。

- (2) a. 有声阻害音は無声阻害音、共鳴音よりも有意に平均点が高い。
- b. 全ての子音と比較すると、両唇音はどの子音よりも有意に平均点が高いが、調音法を一定にして調音点別の平均点を比較すると、その傾向は閉鎖音のみでしか得られない。
- c. 本実験で得られた各子音の平均点と、使用された各子音の獲得時期に関する5つ全てのデータの間に正の相関が確認された。(散布図の例を図1に示す。)

表1 各子音の平均点

調音法		調音点									
		両唇		唇歯		歯茎		硬口蓋 (硬口蓋歯茎)		軟口蓋	
閉鎖音	無声	p	1.87			t	3.23			k	3.57
	有声	b	2.93			d	3.70			g	4.27
破擦音	無声							tʃ	2.80		
	有声							dʒ	3.43		
摩擦音	無声			f	3.17	s	4.10	ʃ	3.77		
	有声			v	4.07	z	5.20				
鼻音		m	2.70			n	2.90				
接近音						l	2.23				
		w	2.27			r	3.53	j	2.73		

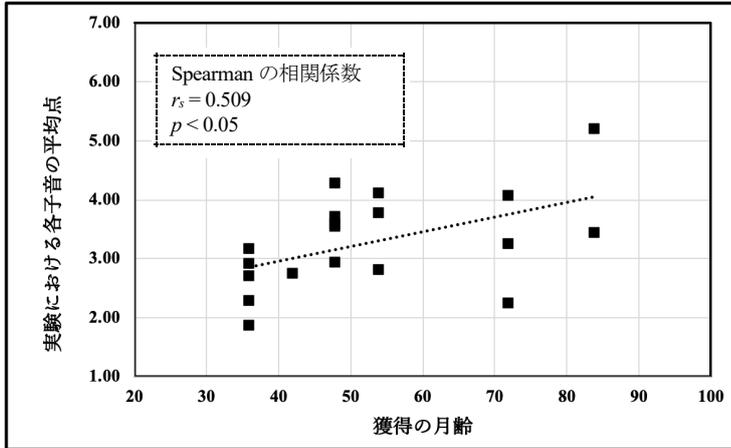


図1 各子音の平均点（本研究）と獲得時期のデータの散布図：獲得時期のデータは Zhu and Dodd (2006) に掲載されていた中の 1 つである Templin (1957) のデータを使用した。

4. 考察・まとめ

本研究では、音と「悪役らしさ」のイメージの結びつきを、英語母語話者に対する知覚実験により検証した。実験結果から有声阻害音は無声阻害音、共鳴音よりも「悪役らしい」と判断されやすく、両唇音については、部分的ではあるが、他の調音点の子音と比較して「悪役らしい」と判断されにくいという傾向が得られた。そのため、先行研究により報告された、有声阻害音および両唇音の悪役名における音象徴パターンが人間一般的な感覚であることが支持されたこととなる。しかし、分析の条件次第では、両唇音が「悪役らしい」と判断されにくいという傾向は常には得られず、音象徴の研究において比較の条件を厳密にしていく必要性が示された。また、音象徴と獲得時期の関連性について、子音が喚起する「悪役らしさ」という印象の度合いと子音の獲得時期の間には相関があることが判明し、獲得が早い子音ほど悪役らしいと判断されにくく、獲得が遅い子音ほど悪役らしいと判断されやすいことが示された。

引用文献

Dodd, Barbara, Alison Holm, Hua Zhu, Sharon Crosbie and Jan Broomfield (2006) English phonology: Acquisition and disorder. In: Hua Zhu and Barbara Dodd (eds.) *Phonological development and disorders in children: A multilingual perspective*, 25-55. Clevedon: Multilingual Matters.

Hosokawa, Yuta, Naho Atsumi, Ryoko Uno and Kazuko Shinohara (2018) Evil or not? sound symbolism in Pokémon and Disney character names. A poster presented at the 1st Conference on Pokémonistics. Keio University, 26 May 2018.

Kawahara, Shigeto, Kazuko Shinohara and Yumi Uchimoto (2008) A positional effect in sound symbolism: An experimental study. *Proceedings of the 8th Annual Meeting of the Japanese Cognitive Linguistics Association*, 417-427.

熊谷学而・川原繁人 (in press) 「音韻素性に基づく音象徴：赤ちゃん用オムツの名づけにおける唇音」『言語研究』157. <http://user.keio.ac.jp/~kawahara/pdf/LabialsDiaperJLSJ2020.pdf> [2020年4月アクセス].

篠原和子・川原繁人 (2009) 「音象徴の言語間比較：有声性のイメージに関する実験研究」『日本認知科学会第26回大会発表論文集』56-59. <https://www.jcss.gr.jp/meetings/jcss2009/proceedings.html> [2020年5月アクセス].

Templin, Mildred C. (1957) *Certain language skills in children: Their development and interrelationships*. Minneapolis: University of Minnesota Press.